

平成 30 年度文化創造関連事業計画

昨年 6 月、「文化芸術振興基本法の一部を改正する法律」が施行され、法律の題名が「文化芸術基本法」に改められるとともに、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、作業その他の関連分野における施策を取り込み、文化を活用していくことが課題となっている。さらに昨年 12 月、内閣官房及び文化庁において、文化と経済の好循環を実現する省庁横断の新政策を実行するため「文化経済戦略」が策定された。こうした中で、地方自治体においても、地域の文化芸術資源の積極的な活用を進めることが求められている。

工芸に関連する北陸地域の動きとしては、国際北陸工芸サミットが 2019 年に福井県、2020 年に石川県を舞台に開催されることが予定されている。また、今年度、金沢市が東アジア文化首都に認定されており、「金沢からはじまる 未来文化の創造 ～KOGEI・アート・芸能・音楽の新たな可能性～」をテーマに、国内外に向けて事業を展開している。また、2020 年までに、東京国立近代美術館工芸館の石川県への移転が予定されている。

このような状況の中、本市では、平成 27 年 3 月に策定された「文化創造都市高岡推進ビジョン」に示されたキーワード〈知る、創る、伝える、つなげる〉に基づき、文化創造都市高岡の推進に繋がる取り組みを行ってきた。

平成 30 年度は、クラフト市場街と同時期の 9 月 22 日（土）・23 日（日）に日本遺産サミットが行われるため、これと連携し、高岡のものづくりの歴史や町民文化を広く PR する機会とする。また、まちかどやユニークベニューなどを活用した芸術文化活動を展開する。

1 アート&クラフトシティ高岡を表現した事業の実施

(1)高岡クラフト市場街（知る・創る・つなげる・伝える）

風情ある「町並み」や「食」を楽しみながら、質の高い「クラフト」に出会うことができるイベントを実施。高岡のアート、クラフトの魅力を、学生や家族連れなど多様な世代へ伝えるとともに、引き続き、県外の産地などとの新たなネットワークの創出と海外に向けた情報発信を強化する。

9 月 22 日（金）～24 日（日）

(2)文化創造都市高岡市民会議（知る・創る・つなげる・伝える）

アート&クラフトシティ高岡推進委員会と協議して企画・運営。アート&クラフトシティ高岡を表現するイベントを実施し、その中で市民との対話を通じて、本市の文化に対する意見や、課題を把握する。

2 文化創造都市高岡テレビ番組の作成（知る・伝える）

文化創造都市高岡の実現に向け、文化を活かしたまちづくりに取り組んでいる方々（大学、活動団体、アーティスト等）を紹介する番組を制作し、周知する。

3 文化創造都市高岡ウェブサイトの運営（知る・伝える）

平成 27 年度末に開設したウェブサイト「文化創造都市高岡」の内容を発展させ、記事を掲載する。

4 Ars nova—音楽の祭典—（知る・創る）

一年を通して、市民に質の高い音楽の鑑賞、演奏や合唱の機会を提供するため、音楽のジャンルやまちづくりの垣根を超え、まちかどやユニークベニューなどの空間を活用した音楽の祭典を開催する。

春の音楽祭（モーツァルトにフォーカスしたイベント「風と緑の楽都音楽祭 2018」）

秋の音楽祭（高岡第九、日露交歓コンサートなど）

冬の音楽祭（市出身の音楽家等を招いたコンサートなど）

5 万葉のふるさとづくり関連事業

(1) 高校生万葉短歌バトル（知る・創る）

(2) 万葉故地サミット（つなげる）

6 日本遺産をはじめとする歴史・文化資産を活用した魅力発信関連事業

日本遺産推進協議会への補助（知る・創る・つなげる・伝える）

日本遺産サミット関連事業を実施。

9月22日（土）・23日（日）

7 藤子・F・不二雄氏の顕彰にかかる関連事業

(1) アトラクティブ高岡推進事業（知る・つなげる・伝える）

ドラえもんトラム、電停、ポストなどの継続実施

(2) ガイドブック等の制作・配布（知る・つなげる・伝える）

(3) THE ドラえもん展 TAKAOKA 2018 の開催（知る・つなげる・伝える）

3月16日（金）～5月6日（日）

8 beyond2020 認証取得の支援（知る・伝える）

日本文化の魅力を発信するとともに、障害者にとってのバリアを取り除く取り組みや、外国人にとっての言語の壁を取り除く取り組みに対する認証の取得を支援する。

<参考>文化創造課の所管する文化施設

(1) 高岡市万葉歴史館

(2) 高岡市美術館

(3) 高岡市博物館

(4) ミュゼふくおかカメラ館

(5) 高岡市民会館（休館）

(6) 高岡市 藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー